

第64回 那覇地区中学校夏季軟式野球競技大会要項

- 1 主催 那覇地区中学校体育連盟
- 2 共催 沖縄県教育委員会、沖縄県中学校体育連盟、那覇市教育委員会、浦添市教育委員会、久米島町教育委員会、南大東村教育委員会
- 3 後援 那覇地区中学校校長会、那覇地区PTA連合会、沖縄県野球連盟那覇支部
- 4 期日 令和4年6月4日(土)、5日(日)、11日(土)、予備日：12日(日)
- 5 日程 令和4年 6月4日(土) 競技開始 8:30 (1回戦)
6月5日(日) 競技開始 8:30 (2回戦・3回戦)
6月11日(土) 競技開始 8:30 (準決勝・決勝戦)
6月12日(日) 予備日
- 6 会場 4日(土) 奥武山多目的広場・沖縄セルラースタジアム・ANA BALL PARK 浦添・仲西中学校
5日(日) 奥武山多目的広場・沖縄セルラースタジアム・ANA BALL PARK 浦添・仲西中学校
11日(土) 沖縄セルラースタジアム・奥武山多目的広場・仲西中学校(予備)
12日(日) 予備日(沖縄セルラースタジアム・奥武山多目的広場・仲西中学校)
- 7 申込締切日 令和4年5月13日(金) 監督会
- 8 申込方法 (1) 大会参加申込用紙是那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を入力し、プリントアウトしたものに学校長の捺印を受け、地区専門部長に提出する(原本1部、コピー4部)。
(2) 申し込み終了後の登録の変更は、6月4日(土)の大会初日の朝8:00までとする。所定の用紙で、5部(4部はコピー)を各球場長まで提出する。
※大会冊子作成のため申込用紙ファイルを那覇地区中体連野球専門部HP宛(nahabaseball@yahoo.co.jp) 5月12日(木) 16:45までにメール送信すること
- 9 企画運営責任者 那覇地区中体連野球専門部
大浜 淳一(仲西中) 石原 孝之(松城中) 渡嘉敷 光範(仲井真中) 仲村 竜太(浦添中) 宮國 稔基(城北中)
久高 陵太郎(首里中) 安里 博文(仲西中) 野原 大輝(浦西中) 大城 征一郎(古蔵中) 多和田 真司(寄宮中)
比嘉 政人(石田中) 下里 洋介(松島中) 仲村 俊哉(昭葉中) 山城 千尋(松島中) 大城 裕樹(首里中)
高良 政之(神原中) 泉 佑之介(神原中) 宮良 淳(神森中) 島袋 剛(浦西中) 一安裕次郎(上山中) 照屋 駿介(興南中)
瑞慶山 良樹(神森中) 當間 栄太(仲西中) 中山 邦彦(安岡中) 仲本 政毅(寄宮中) 比嘉 峻也(小禄中) 他
- 10 参加資格 (1) 那覇地区中体連加盟校に加盟している学校の生徒であること。
(2) 学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。
(3) 1チームは、選手20人、記録員2人、監督1人、コーチ2人の計25人とする。
(4) 選手の引率は、出場校の校長・教員・部活動指導員とする。監督等は出場校の校長・教職員(常勤)・部活動指導員とする。教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(5) 参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
(6) 那覇地区中学校体育連盟が主催する本大会に出場するチーム・選手の内、引率者、監督、部活動指導員、外部指導者(コーチ)、トレーナー等は部活動の指導中における暴力・体罰・セクハラ等により、任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受けていない者であること。校長はこの点を確認して、大会申込書を作成する。なお、外部指導者は校長から暴力等に対する指導措置を受けていないこととする。
- 11 競技規則 2022年公認野球規則及び本大会、特別規則を適用する。
- 12 大会規定 (1) トーナメント方式とする。
(2) 1・2回戦は、試合が9回を終了して同点の場合は、10回から勝敗が決するまで無死1・2塁継続打順制のタイプレーク方式を行う。
準々決勝から決勝戦までは、8回からタイプレーク方式を行う。
(3) 試合は7回戦とし、得点差によるワールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。また、日没・降雨のワールドゲームについては、は県大会代表チーム決定後、全試合5回以降成立とする。日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンデッドゲーム)を適用する。
(4) 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
○大会中の1日の投球数・・・100球 ○1週間の投球数・・・350球
※試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
- 13 使用球 全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
- 14 組合せ 令和4年5月13日(金) 17:30～
(1) 城北中学校(地域連携室)での監督会の席にて行う。
(2) 監督会には監督(又は当該校の教師)が出席すること。
不参加の場合はそのチームを失格とする場合もある。但し、離島校は、委任してもよい。
- 15 表彰 (1) 優勝校には優勝旗(持ち回り)、賞状を授与する
(2) 準優勝校には賞状を授与する
(3) 3位(2校)には賞状を授与する。(表彰も行う)
(4) 個人賞は決勝進出チームから殊勲、敢闘(各1名) 打撃は第1位から～第3位まで表彰する。(打撃賞は規定打席：試合×2打席以上)とする。但し、タイプレークは除く)
- 16 その他 (1) チームの責任は、引率者において、一切負うものとする
(2) 大会出場中の選手の傷害については、大会本部において応急処置を行い、後は各学校で処理する。
(3) 今大会の上位8チームには、第74回沖縄県中学校野球選手権大会への出場資格を与える。

第64回 那覇地区中学校夏季軟式野球競技大会 特別規則

- 1 試合時間 (1) 試合は90分と計算し、その60分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を40分とする。
- 2 オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(5部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
- 3 ダッグアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
- 4 シートノック (1) シートノックは後攻より5分間とする。ノッカーは選手と同じユニフォーム・シューズを着用すること。
(2) シートノック時のみ、登録外の補助員(5名以内)を認める。
なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。
- 5 応援 (1) 無観客試合とする。(4月12日の那覇地区専門部長会で決定)
- 6 守備側と攻撃側のタイムの回数制限
捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3回タイムの回数制限以内とする。なお、延長戦となった場合は、1イニングに1回行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。
- 7 監督が投手の所へ行く回数の制限
(1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)は、1イニングに1回行くことができる。
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についていたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
- 8 用具 (1) マスコットバット、バットリング、鉄棒、トレーニングバット、公認球以外のボール等、試合で使用しない物の球場内への持ち込みを禁止とする。 リフト、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。
(2) 手袋は、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(4) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。
また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
※ヘルメット(捕手用含む)は、SGマークのついたものとする。
- 9 試合のスピード化
(1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
- 10 その他 (1) 背番号は1~20番を使用し、原則としてポジション順とする。
(2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。
コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(3) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(4) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(5) 球場内においての試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(6) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(7) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
(8) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
(9) コロナウイルス感染拡大防止のため手洗いうがいの徹底及びマスクの着用を奨励する。
(10) 本大会は新型コロナウイルス感染症対策として、別に定める「那覇地区中学校体育連盟主催大会実施上の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」及び「各競技新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に則り実施します。参加者及び全ての関係者は両ガイドラインを遵守し、必要書類を提出して大会に参加してください。

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。

第56回 那覇地区中学校夏季軟式野球競技大会 細則

- 1 試合時間 (1) 試合は90分と計算し、その30分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
- 2 オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(5部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
- 3 ダッグアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
- 4 シートノック (1) シートノックは、1回戦から準決勝まで後攻より行う。時間は5分間とする。但し、天候の理由からシートノックを行わない場合もある。
(2) シートノック時のみ、登録外の補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
- 5 応援 (1) 中学生にふさわしい応援をする。
(2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。
- 6 守備側と攻撃側のタイムの回数制限
捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングスで3度以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)となった場合は、2イニングスに1度行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。
- 7 監督が投手の所へ行く回数の制限
監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備については、同一イニングには再び投手には戻れない。
- 6 用具 (1) バットリング、トレーニングバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。(但し、マスコットバットは使用可)
(2) 手袋・リストガードは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(4) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤーフラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
- 9 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4) 投手が投球動作に入った場合、ネクストサークルの次打者は座ること。
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
- 10 その他 (1) 背番号は1~20番を使用し、原則としてポジション順とする。
(2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(3) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(4) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(5) 球場内においての試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(6) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(7) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
(8) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。